

| | | | |
|---|--|------------------|-------------------|
| 科目コード／科目名 (Course Code / Course Title) | DM546／メディアコミュニケーション概論 (Introduction to Media Communication) | | |
| 担当者名 (Instructor) | 鄭 佳月(CHUNG KAWOL) | | |
| 学期 (Semester) | 秋学期(Fall Semester) | 単位 (Credit) | 2単位(2 Credits) |
| 科目ナンバリング (Course Number) | ICC2330 | 言語 (Language) | 日本語 (Japanese) |
| 備考 (Notes) | 2016 年度以降入学者対象 基礎科目(一般) | | |

授業の目標(Course Objectives)

マスメディアやソーシャルメディアに関する基礎的な知識を身につけることを目標とする。また、メディア・コミュニケーションの社会的機能をグローバル社会や多文化社会との関係においても理解し、現状と課題を多角的に考察する力を養うことを目指す。

The objective of this course is to provide students with exposure to mass and social media so that they can obtain the relevant basic knowledge on the subject. This course aims to help students understand the social functions of media communication in relation to global and multicultural societies and to develop students' ability to consider current situations and issues from multiple perspectives.

授業の内容(Course Contents)

新しいメディア環境があらわれ、市民がメディア・コミュニケーションの主体として台頭してきた現代社会において、人々のネットワークはローカルなレベルとグローバルなレベルを横断し、新しい関係性を生み出している。その背景には、新しいメディアだけでなく、既存のメディアも含めたメディア・コミュニケーションの複合的な動きと、それらを活用しようとする多様な立場の人々の取り組みがある。こうした状況を理解するため、まず、メディア研究に関する文献を紹介しながら、マスメディアやソーシャルメディアの基礎的な知識について概説する。また、メディア・コミュニケーションと社会の関係について様々な規模の事例を取り上げ、メディア・コミュニケーションの社会的機能と諸問題について多角的に検討する。最後に、メディア・コミュニケーションの主体としての市民の存在と意義、求められるリテラシーについて確認する。

In modern society, where a new media environment has emerged and citizens have come forth as the main players in media, communication networks of people are reaching local and global boundaries, creating new relationships. Behind this are the complex movements of media communication, including existing and new media and the efforts of people in diverse positions to utilize them. To simplify this concept, this course first introduces the basics of mass and social media by elaborating on the literature relevant to the subject. Additionally, this course uses examples at local and global scales of the relationship between media communication and society and examine the social functions and problems of media communication from various angles. Finally, this course reviews the existence and significance of citizens as media communication subjects and the literacy required.

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス: 授業の目的と進め方
2. メディア・コミュニケーションとは何か
3. 近代社会と出版
4. 20世紀と放送
5. 大衆社会とマス・コミュニケーション
6. マスメディアとジャーナリズム
7. メディアの送り手と受け手
8. メディアのパーソナル化
9. ソーシャルメディアと「つながり」
10. インターネットとネットワーク文化
11. オルタナティブメディアの試み
12. グローバル化とメディア
13. グローバルメディアとコミュニケーション
14. 総括

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

- ・メディアが伝える国内外の出来事に関心をもち、情報の流れについて気づいたことをメモする。
- ・授業後はノートや紹介された文献を読み直し、論点や疑問点などを整理する。
- ・その他の授業時間外の学習については、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

レポート試験(Report Exam)(50%)/リアクションペーパー(30%)/授業参加度(授業内に指示した課題を含む)(20%)

全 14 回のうち、11 回以上の出席がない場合、成績評価を出す対象としない。

テキスト(Textbooks)

- ・必要に応じて資料を配付する。

参考文献(Readings)

- ・受講者の理解度に合わせて授業時に紹介する。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

- ・受講ルールは開講時に説明する。
- ・受講者の理解度や進捗状況等により、内容と順序は若干変更する可能性がある。その場合は授業時に指示する。
- ・授業では積極的に学生の発言や議論を求める機会も設けるため、授業準備と能動的な受講態度が期待される。
- ・全授業回のうち 7 回はオンライン実施(実施回については Blackboard で指示する。感染状況等によっては授業形式を調整する場合がある。)

注意事項(Notice)